

教育 広報

いわき

編集責任者
福島県教育庁
いわき教育事務所
発行責任者
菊池 淳一

年賀状

いわき教育事務所長
菊池 淳一



時季外れの話で申し訳ありません。
 令和4年、今年もたくさんの年賀状をいただきました。学級担任をすることが無くなり教え子たちからのものはほとんどなくなってしまいましたが、30年にもわたり同じ教え子からいただいている年賀状が何通かあります。きれいに干支などがプリントされた中に直筆で近況などが添えられています。それを読みながら、その当時のことを懐かしく思い出するのが毎年の楽しみでもあります。

さて、ここでお話ししたいのは、表面の宛名の敬称についてです。この教え子の年賀状には「先生」とあります。教え子であっても敬称は「様」としてあるのが多いのですが、数枚「先生」と書いてくれるものがあります。

私は、大学を卒業した後、すぐに教員採用試験には合格できず、2年ほど臨時的任用の期間を経験しました。そんな中で私が教員になるのを諦めてしまうのではないかと心配してくれた先輩の先生が「一度でも『先生』と

呼ばれた者は、子どもにとっては一生『先生』だぞ。」と、励ましてくださいました。

当時の私はそれで、「必ず、正式採用になる。」との思いを新たに、眠いのを堪えて採用試験の勉強に取り組んだのを覚えています。今、思うとそれは、正式採用になれ、という励ましと共に、「おまえも『先生』という名に恥じない生き方をしろ。」という先輩からのメッセージだったのでしょ。

今年度も、管理職によるハラスメントも含めた教職員の不祥事が多くありました。どれを取り上げても、教え子に、顔向けできないようなものばかりです。「一度でも『先生』と呼ばれた者は、子どもにとっては一生『先生』」。この名に恥じない生き方をしなければならないと思うのです。

年の初めに、私を戒めてくれる懐かしい教え子たちからの年賀状に感謝しています。

<統合校として新たなスタート!>



☆キャリア指導推進校としての学び

大学進学から就職まで生徒の幅広い進路希望に応えます。(2年次から生徒の進路希望に応じてコース・系統を選択)

【アカデミックコース】

4年制大学等の進学に対応したカリキュラム

文系 理系 スポーツ系 芸術系

【スペシャリストコース】

短期大学・専門学校・公務員・就職等
幅広い進路に対応したカリキュラム

看護医療系 教養系

☆県の教育プログラム(保健・医療コース)実施校に指定

保健・医療系を希望する生徒は、大学・専門学校・病院と連携したプログラムや看護に関する授業が受講できます。将来地域医療を支える人材として活躍ができるよう、医療従事者としての人間性や職業観を高めていきます。

☆学習に力を入れたい、部活動を頑張りたい、そんな自分の得意が伸ばせます。

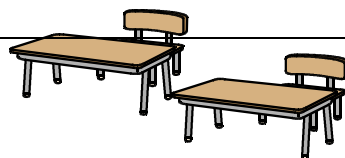


令和3年度も、昨年度からの世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、全国の学校では感染拡大に伴う様々な制限を余儀なくされました

しかし、各学校においては、子どもたちへの保健・安全指導、日々の消毒作業、人権教育の充実、感染防止に努めながらの授業や学校行事の実施など、意工夫して、温かな教育活動が進められていました。

いわき教育事務所でも、各事業について、子どもたちのためにできること、しなければならぬことは何か」を第一に考えながら取り組んできました。

各学校で GIGA 端末の整備が進み、ICT を活用した授業実践が進められる中、当事務所でも研修会や協議会のオンライン開催に取り組みました。よりよいものを目指して試行錯誤を重ねています。



推進校の実践紹介

ふくしまの学校キラリ学力向上推進事業「教科担任・タテ持ち推進校」に係る授業公開

昨年度から、タテ持ち推進校として実践研究を続けている植田東中学校において、11月5日(金)、オンラインによる授業公開が行われました。域内全ての中学校から計39名が参加し、外国語科のTTによる授業や教科タテ持ち制の成果と課題について研修を深めました。

同様に、昨年度から教科担任推進校として実践研究を続けている小名浜第一小学校においても、11月26日(金)、オンラインによる授業公開が行われました。域内全ての小学校から計61名が参加し、外国語教育推進リーダーによる5年生の授業、理科の専科教員による6年生の授業をライブ配信によって参観しました。トークセッションにおいては、小名浜一小からの特色ある実践報告がなされ、次年度からの小学校教科担任制の積極的な推進に向けて、そのメリットと課題を共有することができました。



小中英語パートナーシップ事業 (英語指導力向上事業)に係る授業公開

「豊かな言語活動を通じた小中連携の授業～英語による発信力の強化」「CAN-DOリストに基づく小中高を通じた授業改善」等を目的に、今年度から3年間の実践研究が、中央台南中学校、中央台東小学校、中央台南小学校、いわき光洋高等学校の4校においてスタートしました。拠点校の中央台東小、中央台南中、いわき光洋高校では一年次の授業公開がオンラインにて行われ、英語担当教員ネクストステージ研修対象者等の計135名が参加し、外国語でコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育むための授業の在り方について研修を深めました。



福島県がん教育実践事業 がん教育研究推進校研究公開

一昨年から文部科学省の委託を受けて立ち上げた本事業において、県内では唯一の小学校の推進校として、御厩小学校での研究公開が11月18日(木)に開催されました。

研究主題を「自他の健康と命の大切さを育むがん教育」とし、当日は3学年の道徳科、6学年の体育科(保健)の授業が公開されました。

学年の発達段階に応じた段階的な指導をカリキュラムに位置づけ、外部講師を効果的に活用し、命の教育にふさわしい温かな雰囲気の中で、子どもたちが主体的に学習に取り組む姿が見られました。



NEW! 新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト



ふくしま「未来の教室」授業充実事業

「クラウドアプリを使用した授業実践を積み重ね、指導のノウハウを累積しながら、1人1台端末を有効活用して児童生徒の資質・能力の育成を図る」ことを事業の目的に、令和3年度から3年間、夏井小学校、内郷第一中学校を実践協力校に指定して研究を進めています。今年度は、研究指定学年である小学校第4学年、中学校第1学年を中心に、各校主体で現職教育を行いながら、ICTの活用を基にした児童生徒の資質・能力の向上はもとより、教員のスキルアップにも力を入れてきました。


今年度の研究成果として、11月12日(金)に中学校第1学年で学級活動、12月3日(金)に小学校第4学年で体育科の授業をオンライン双方向型で公開し、授業内での端末やクラウドアプリの効果的な活用方法について市内全体に発信しました。




地区別研究協議会

両事業の実践協力校による実践紹介、日本マイクロソフト株式会社や大学の有識者による講義や市内の教員によるグループ協議等をオンライン双方向型で計2回実施しました。

研究協議を通して、教育活動におけるGIGA端末の効果的な導入方法や、各校の実態に応じた情報モラル教育の進め方について、具体的な事例を基に情報交換を行い、研鑽を深めることができました。



第1回：8月20日



第2回：12月15日

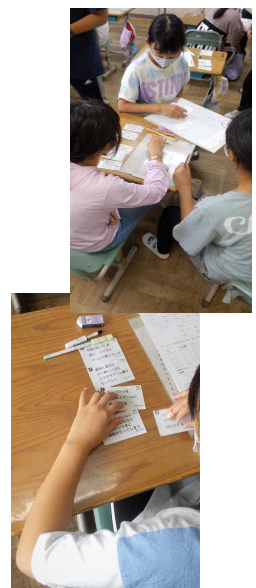
次世代のためのメディアリテラシー育成事業

本事業は、「児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持ち、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用できる力を育成する」ことをねらいとしています。『ふくしま「未来の教室」授業充実事業』と共に、ICT活用プロジェクトを推進する事業です。

今年度は、赤井小学校と内郷第三中学校を研究校とし、それぞれの学校で情報モラル教育を重点に、年2回の授業研究会を実施するなどして実践研究が進められてきました。

両校とも、アンケートやネット利用診断サービス等を活用して自校の実態を分析し、情報モラルにおける課題解決のために、どの場面でどの教材を使って指導することが効果的かについて、研究が進められています。また、家庭との連携の在り方についても、工夫した取組が行われています。

研究の成果は、県教育委員会のHPに掲載されますので、ぜひご覧ください。



各種表彰、おめでとうございます



- ◆ 文部科学省
 - ・ 地方教育行政功労者表彰
前いわき市教育委員会教育長 吉田 尚 様
- ◆ 福島県教育・文化関係表彰
 - ・ 学校教育功労者表彰
 - 中央台東小学校長 林 和樹 先生
 - 小名浜第一小学校長 坂本 貴洋 先生
 - 勿来第一中学校長 森 義彦 先生
 - 磐城高等学校長 吉田 強栄 先生
 - 磐城桜が丘高等学校長 佐竹 正徳 先生
 - ・ 特別支援教育功労者表彰
いわき支援学校長 曾川 孝規 先生
- ◆ 福島県教育・文化関係表彰 (特別功績者)
 - ・ 優秀教職員の部
好間第一小学校 養護教諭 渡邊 佳子 先生
 - 中央台南中学校 教諭 宮崎 美穂 先生
 - 遠野高等学校 教諭 鈴木 拓也 先生
 - ・ 児童生徒 (団体) の部
平第三中学校 キャリア教育推進委員会
いわき光洋高等学校 放送委員会
- ◆ 文部科学大臣優秀教職員表彰
泉中学校 教諭 澤出 小百合 先生
- ◆ 福島県教職員研究論文
 - ・ 特選
 - 平支援学校教諭 鈴木 のぞみ 先生
 - 平支援学校 寄宿舎指導員 泉 大介 先生
 - ・ 入選
遠野高等学校 教諭 渡部 久美子 先生
- ◆ 福島県教育・文化関係表彰
 - ・ 文化財保護功労者表彰
(元) いわき市文化財保護審議会委員 木暮 幸雄 様
 - ・ 学校保健功労者表彰
(元) 上遠野小学校他学校医 葉田野 博 様
- ◆ 第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰
・ 勿来工業高等学校

総務担当より

本当は怖い年末調整の話



年末調整業務がひと段落する11月後半、毎年この時期に税務署から一通の通知が届きます。

内容は、ある者の源泉所得税に誤りがあるのではないかとというもので、指摘された内容はほぼ100%正確(追加徴収を求められる)という、非常に恐ろしいものです。

指摘原因で最も多いのが「扶養控除の誤り」で、扶養家族である配偶者や子供の収入が限度額を超過しているケースです。税率20%(年収600万円を超えるあたりから)では、扶養親族1人分過大申告だったとすると、約8万円(1年分)の追加徴収となりますが、19歳以上23歳未満の特定扶養親族であれば、1年分だけで12万円以上の徴収額となり、もし3年間続いていけば(必ず3年分は調べられます)、40万円近くを一括納付することになります...

あいにくちょっとした勘違いや書き間違いなどによる犠牲者(?)は後を絶ちません。くれぐれも扶養家族の収入には常に細心の注意を払ってください。扶養家族の年収が怪しいと思ったときは、まずは事務の先生へご相談ください!我々事務方がサポートします!!

「講師として勤務できる方をご紹介します!」

いわき市内の公立小学校、中学校、県立高等学校で、講師として勤務できる方を募集しています。親族、友人、近所の方、退職された方などへお声かけのご協力をお願いします。



しばらく教壇に立っていないのだけど・・・
初めて教壇に立つので自信がないのだけど・・・
教員免許を更新していないのだけど・・・
教員免許取得中でまだ免許がないのだけど・・・
毎日働くのは難しいのだけど・・・ etc



こんな悩みがある方でも結構です。学校での勤務に向けて話し合っていきましょう。お気軽にご相談ください。

連絡先: いわき教育事務所 管理担当 24-6216